

有明高専だより

第61号

有明工業高等専門学校

〒836・大牟田市東萩尾町150

TEL 0944-53-1011

印刷：重富オフセット印刷

諸君入学おめでとう。
 本日より諸君は有明工業高等専門学校に入学した諸君の友人達は学生ではなく生徒であります。学生と生徒の違いがわかりますか？辞書によりますと、学生………学校で学業を修めているもの。生徒………学校で教養を受けているもの。とあります。即ち学生は白から進んで学業を修得する一人前の人であり、生徒は先生から教えてもらう受動的な半人前の人であるということです。諸君は学生であることにはほこりを感じていただきたい。先生方は諸君を5年間の無だのない一貫教育により、教育研究を通じて将来の日本の工業技術になう一人前の技術者になるよう指導されます。これを受けて諸君は積極的に学生としての勉学にはげんでいただきたい。

一つのことを学んだ場合、別の解釈、解法は無いのか？他の分野との関係、類似性、応用性は無いのか？このような態度での勉学が実力をつけるただ一つの方法であります。

現在日本の企業は新しい独自の

第23回 入学式式辞



有明工業高等専門学校長 竹村 哲男

技術開発に社運をかけております。従来は技術輸入による発展はこれからは望めないことです。これにともない生産の現場も日まぐるしく変化します。

諸君は日本の産業界の発展をになう独創性を持った技術者に育つてもらはなければなりません。独

地区では岡山、広島、山口、徳島、九工大、佐賀、長崎、熊本、鹿児島大も高専よりの編入学を受け入れております。九大も九州地区の高専校長の要望により昨年よりこの制度を発足させ、勉学の意欲のある学生を待っております。無意味な受験勉強をしなくても前述の勉学方法により希望がかなうものと思えます。

最後に諸君は本日より「学生」であることを深く認識して積極的に勉学にはげみ、よき友人、よき師弟関係を作り、有明高専に学んだことが好い思い出となるようにして下さい。

校長略歴

竹村 哲男(たけむら てつお)
 大正12年9月1日生、高知県出身
 昭和年月
 20・9 九州帝国大学理学部物理学科卒業、同大学院特別研究生(23年3月まで)

- 25・3 九州大学工学部教官
- 34・2 理学博士
- 34・3 久留米工業短期大学教授
- 38・10 九州大学工学部教授(応用理学講座、工学研究科担当)
- 46・10 学生部参与(47年3月まで)
- 48・2 学術審議会専門委員
- 入学試験審議会委員(6期6年)
- 教養部審議会委員(2期2年)
- 59・5 高分子科学功績賞受賞

目次

- 1 第23回入学式式辞
- 2 第19回卒業証書授与式式辞
- 3 主事室四星霜心の回復を
- 4 主事をお受けして退官あいさつ
- 5 人事異動
- 6 新人紹介
- 7 図書館だより
- 8 本を読むということ
- 9 新入生オリエンテーションを終えて
- 9 学寮だより
- 蕪り高き倍明寮文化をみんなできわやかな寮をより良い寮をめざして
- 寮行事
- 10 総合実習リポート
- 12 同窓会だより
- 学位を取得して同窓会事務局から教室通信
- 14 学生会だより
- 春季合宿
- 新入生歓迎遠足を終えて
- 昭和三十九年度クラブ学生表彰(追加分)
- 15 高専体育大会を前にして
- 年間行事計画
- 九州地区高専体育大会日程
- 公開講座受講生募集
- 河野保子さんの事故について
- 16 編集後記

第十九回 卒業証書授与式 告 辞

本日ここに、後援会長、同窓会長をはじめ来賓各位、御父兄の皆様、教職員並びに在学生代表多数参列のもと、本校第十九回卒業証書授与式を挙行し、新しく技術の世界に羽ばたく卒業生一三七名を、産業界、官界及び技術科学大学に送り出すことが出来たこと、本校の最も慶びとするところであり、卒業生諸君おめでとう、御父兄の皆様にも心からお慶びとお祝いを申し上げます。



会、同窓会の御協力による学校の発展にも増して、諸君のこの五年間における人間的な成長と技術者としての成長に、格段に大きな慶びと感銘を覚えます。

これらは教育・クラブ活動・寮生活における教職員の御指導と諸君自身のたゆまぬ研鑽の賜であり、君自身が、暖かい御父兄の御支援助のお陰であり、心から敬意と謝意を表する次第であります。

ESAの探査機「ジオット」によるハレーすい星の核の観測などの宇宙開発技術にみるように、高度情報化社会の発展は素晴らしく、さらにニューセラミックス等の新素材の開発と応用、またバイオ技術による燃料用ガスを発生させる菌体の発見、遺伝子操作による品種の改良、薄膜ダイヤモンド合成など、先端産業振興による技術革新の進歩はまことに目まぐるしいものがあります。

このような先端技術の分野に限らず、社会は新しい技術の開発に期待を寄せているわけであり、諸君は明日から平穩なこの学園を巣立って、技術の世界に、あるいは技科大に旅立つことになり、常に「積極、協調、創造」を心掛

新入生として諸君を本校に迎えたのは、この第二体育館が竣工したばかりの、桜の花に暖かい小雨の降る日でありました。

それから五年間、本校では、他高専にさきをかけて共同教育研究施設、福利施設修己館の新営、一般及び専門の教室及び体育施設全般の改修による環境整備、さらに各学科の新鋭機器導入による教育研究設備の充実がすすめられて来ました。また後援会、同窓会の絶大な御支援による二十周年記念式典及び記念事業を機として、中学生の一日入学・公開講座等を企画し、年々好評を得るに至りました。

このような、本校教職員、後援

先端技術の発展と対照的なことであり、日本は伝統工芸であるいは郷土の生んだ伝統工芸の道具の数々に、さらに工夫を加えて日常使いにつけて、「心豊かな暮らし」をモットーにして、素晴らしい伝統工芸が全国各地に、熊本市にも建設されました。新しい技術による画一的な工業製品が身近にあるふれる現代生活への反省でもあるわけであり、

また、英仏でも、これまで日本製品に高い関心が寄せられて来たけれども、最近では日本文化への関心が高まつつあるといわれています。日本の技術(ハード)の基本となっている日本文化(ソフト)は何かというところであります。日本の禅、能、香道、華道、茶道などへの外国人の高い関心は諸君のよく知るところであります。

これらを考え併せると、これらの技術者には、技術開発への努力と共に、日本固有の文化などへの理解を深め、「豊かな心」を養うことが大切なことを強く訴えたいと思えます。

高専卒業生は、その平均的評価として、専門的知識や技術に優れた職場適応に富み、スタートダッシュも速いという点で高い評価を受けています。本校卒業生の中でも本年は二名の博士の学位取得者が生れました。おそらく第一号と第二号であろうと思えます。これは一例に過ぎませんが、これらの優れた先輩に続いて、諸君も五年間の一貫教育の中で沢山の貴重な体験を経て参りました。

学生会役員と諸君の協力による記憶に新しい高専祭の成功、ラグビーの森重隆、直木賞作家胡桃沢耕史両氏の講演、新記録統出の秋の陸上記録会、可愛いマスケットが好評であった体育祭、地区高

昭和六十一年三月二十四日
有明工業高等専門学校 吉村虎蔵

主事室 四星霜

前教務主事 荒木三知夫

去る4月21日、昨年英彦山青年の家に次いで、私としては五日目のオリエンテーションのため今年度は電気工学科の主任として天草青年の家へ向った。四年前、教務主事としての最初の仕事は学生主事の協力者として此処から始まり、更に二年後、オリエンテーションが教務主事の所管となった。この頃より青年の家を利用する団体が多く、適当な時期の施設の確保のための関係者の苦闘が始った。今年度は皆さんの御協力により最良の時期・場所が得られ誠に幸であった。

主事室の四年間、昭和58年には本校創立20周年記念の諸行事が行われ、同時に中学生諸君へ本校を紹介するための「一日入学」の実施、二つの公開講座の開催、選択科目の強化された新カリキュラムの実施等本校としては未経験の行事等が続出した。一日入学は教職員皆さんの御協力により、好評裡に学校見学会へ発展し、昭和60年には参加者約700名を迎えることが出来、本校の入学志願者数も本年度52名に増加した。この数は昭和58年に次ぐ数であり、慶賀にたえない。一方、学校を挙げての努力に拘らず満足な結果を得られない事項も多い。吉村校長の三つのキャンペーンの一つである「環境美

化」の指導もその一つであり、遂に掃除を時間割の中に入れ、この様な時間割を早く正常に返す事が出来る様にしたいと学生に訴えた。其後担任教官をはじめとしての指導により、大きく改善された。

教務主事としての最大の願いは学生の学力向上であるが、学習意欲の向上について種々論議を重ねられたが、従来の地味な指導以上に特に有効な方策も見出せなかつた。教務関係の規程、褒賞の問題と共に関連するところ深く、続いて地味な御指導をお願いしたい。

高専教育の目的は「実践的技術者」の養成であるが、その「実践的技術者像」を「問題解決型技術者」として解説することを選ばせながら61年の正月の講話より始めたが充分な理解を得るまでに至らなかった。

高専だよりについては、第55号より担当し、紙面の改善を図り夫々編集後記にその経過について述べた。

今春、新校長を迎えと共に新主事室が発足した。教育、学生指導の最高のスタッフであり全校挙げて御期待しているところである。四年の間、御指導戴いた吉村前校長、私を補佐して戴いた主事補

心の回復を

前学生主事 樋口大成

なぜ大学受験に追われぬ高専で、なぜこの平和な現代に、もつと落ち着いた環境が生れないのだらうかと、学生主事の間中、思い続けて終ってしまった。

交通違反で、事故で、罰金だ、保証だ、処罰だ、ごね得だ、嘘ついた方が得だ、逃げたら損だ――このような言葉の貧困は、正に心の貧困である。そう思いながらも主事として全学生に話してできる機会にも、私自身、できるだけ少しい言葉で、手短かに話すことを心がけてきた。そして自分自身、心が抜けている思いにさいなまれた。例えば論議、この二千年昔の孔子の言葉で現代に通ずるものをゆつくり考えてみるのもいい。

身体髪膚これを父母に受く、あえて毀傷せざるは孝の始めなり。身を立て道を行ひ、名を後世にあげ、もつて父母を顕すは孝の終りなり。

ここには親孝行が取上げられている。愛し、心配してくれている親への感謝は自然の感情である。これがなければ犬猫にも劣る。で

は親孝行とは何か。孔子は怪我しないことをその第一歩だと言っているのだ。交通事故多発の現代に正に通用するではないか。

また、私が特に強調したいのは親孝行の方法の中に「道を行ひ」とあるところである。

罪には法律上の罪のほか、法的には問題なくとも、道徳上悪質な罪を人は犯すことがある。「道を行ふ」とは、道徳上の罪を犯さない意味が含まれていると思う。

停学だから罰金だからというのではなく、学生生活全般にわたって学生の、青年の、市民としてのモラルについて論じたり、考えたることができるのは高専の特権だと私は思う。諸君の成長を期待している。

主事をお受けして

教務主事 成富 孝

四年間つとめられた荒木三知夫先生のとを受けて、今度凶らずも教務主事をお受けしたが、正直言つて、戸惑いと不安が先にたつ。もとより経験はなく、加えて、生来の口べたときいている。どう考えてもこのような大役は不向きなのである。固辞したにもかかわらず、結局お引き受けしてしまふ羽目になったが、なんととも面はゆいような、場違いなような、居心地の悪さはぬぐいがたい。そう

は言うものの、お受けした以上、任務を遂行していくかばならない。この春休みは、なんとなく緊張した、身構まえた日々であった。四月早々にひかえている学生を前にしての話の事が頭を離れない。なんとか一応の目的をたてて、四月に望んだが、不安であることにかわりはない。常日頃大切だと考えている、学習意欲の増進、特別教育活動を含めた出席の徹底、環境の美化、この三点を中心に話をしたが、いかがなものであつたらうか。その良し悪しは別にして、今始業式、新入生オリエンテーションをまがりなりにも終えて、ほつとしていられる。しかし、あまり息抜きばかりしているわけにもいかないようだ。教務主事室は、学生主事室のように、突発的な事件が次々と飛びこんでくるようなことはないものの、その分、学校の基本的姿勢をじっくり練りあげて行く必要がある。教務関係の懸案事項もいろいろあるようだ。少しずつ取りかかっているか、いかなければならない。もちろん何をやるにしても皆様の協力なしにはできない相談である。教務主事経験者である松島先生や荒木先生をはじめ、皆様方のアドバイス、協力を得ながら、私なりに微力を尽くすしかないと思つていられる。宜しくお願ひする次第です。

退官あいさつ

退官二十日間

吉村 虎 蔵

昨年秋の初めのことである。学校出入りの表具屋さんに軸物の表装をお願いしようと、用度の西川さんの力を借りて連絡をとって頂いたら随分と忙がいらしく、年内はとも駄目というのであった。年が明けて直接電話してみた。早速公舎に参りますとの快諾を得た。その時依頼した軸物を三月末引越の直前に、御主人自ら公舎に届けて下さった。

一つは「師弟の和熟」の漱石の祝辞の扁額で、昭和四十四年入院見舞に熊大で戴いたものに、ひどいシミが出たためシミ抜きをしたものである。この祝辞については図書館閲覧室にも掲げてあるから改めて記すことはないと思う。

も一つは博多で多く見られる仙崖(せんがい)和尚の軸物である。古くから我家にあるものうち一番粗末な仮表装であるから、おそらくにせ物であろうが言葉が好きだから表装を願ったところ、見事に出来上ってきた。

文字の学博しと雖も、ちえ月がくれば、我等が闇夜の

挑ちん邪魔にはなるとも益はない
とあり、提灯(ちようちん)を持ち杖をついた盲人らしい人が書の左下に小さく書いてある。まことに我々の心すべきことを巧みに言っていると思う。

最後の一つは、昭和十五年頃中国みやげの石碑文の拓本一枚を軸物に表装したものである。開那(かんだん)の夢枕の地の碑文の一つであろう。

夢醒(むせ)黄梁(きやうりやう)方悟道(ほうごどう)
心同明月(しんどうめいげつ)可尋梅(かじんばい)

とある。退官の今の身には教えられることの多い句である。

この二年、特にこの一年間は、書き残したいこと、残さなければならぬことを、議事録や学内出版物にとどめるように努めて来た。もう何も申し上げることはないと考え、一所懸命勤めたつもりが六年間であったが、さて退官してみると、至らなかつたこと、やり残したことが多く感じられ、その思いがつのるばかりである。御寛容と今後の学校の発展を祈りつつ、

題もつけられない話

穴山 健

年に一度か二度、「無礼者」となったものだ。遅刻しても会釈するでなし、自分の席にぬうと行くやつ。目の前で大欠伸するやつ。その口にチョークをほうりこんでやりたいよ。

ある時、続けて二度ほどどなたかたむろしている横を通りかかると、小声に聞えるではないか、

「無礼者が来た。まいった、まいった。私が無礼者になってしまった。以後、ニヤリとしそうになるのを抑えて、やはり、どなり続けたことだった。呵々。」

(連絡先)
〒八二四 福岡市城南区別府七丁目九一五
目九一五
目九一五
目九一五

萩尾台での二十一年を謝して

清森 宏 之 助

今年三月に入つて関東地方に大雪が降つたり、何時迄も肌寒くおそい春の訪れでしたが、例年、卒業式入式に立ちあうことによつて実感としての私の春があつたので、此の度は思わぬ病で臥した私の上を春は素通りしてしまつたような気がしています。

大学卒業後、機械技術屋として企業にいた私に、高専教育への話がもち上り、人格、学問共に未熟な者としては大きな迷いがあつたのですが、高専教育は実務を重視するという理念にひかれ、企業内で積んだ経験がふまえて何とかやってみようと本校に着任したのが昭和四十四年四月、第一回生がまだ三年生でした。校内は建設途中で、管理棟、現在学生課が人居している棟、並びに一般棟、工業化を完成し、実習工場の一部が形を整えつ、ありました。

機械・電気の教官一同は化学科棟の一隅を間貸りの状態で一年間を過し、雨上りの後は赤土を踏んで実習工場に通うのが大変でした。以来二十一年、試行錯誤の本校播種期から、現在の成年期に達する過程を共に生きた充実感は今にして思えばかけがえのないものでした。

第一回生を初めて社会に送り出した卒業生の日の感激、その後本校卒業生の社会的評価を耳にする折々の安堵、手探りでこぎつけた総合実習センター完成の満足感等歳月は苦勞を忘れさせ、喜びだけを際立て、くれるようです。益々

とうとう、定年迄一人前の教師になりきれず、殊に最後の一月間になって教職員、並びに在校生に多大な御迷惑をおかけしたま、不本意なかたちで学校を去るようになりました事を心よりお詫び致しますと共に、その間に頂いた数々の御厚情を深く感謝申し上げます。すべて初めがあれば終りがありません。それをしっかり受け止めて、学生諸君は一日一日を大切に生きて下さい。萩尾台にいつまでも清新の気がみなぎることを念じています。(連絡先)
〒八二〇 福岡市中央区警固一丁目六一四四
目六一四四
目六一四四

退官の記念となつた三つの軸物の文を紹介して、退官二十日の今の気持ちを托すこととした。(六一・四二〇記)
*虚という青年が越の部郡で、道士呂翁から榮華が意のままになるといふ不思議な杖を借りて寝たところ、次第に立身して富貴を極めたが、覚めると枕頭のこすり、ふがまだ煮えなほどの短い間の夢であつたという故事。人の世の榮枯盛衰のはかないことのとえ。(広辞苑)

(連絡先)
〒八二二 福岡市東区菅松三丁目九一〇
目九二二
目九二二
目九二二

学生諸君へ

村山 康 雄

五年間ではありましたが、有明高専の学生諸君との出会いから学んだことは多大であり感謝しております。

ここに私が教師として感じたことを少し述べたいと思います。

学校の施設、またそれをとり囲む自然環境と思われた条件下にあるにもかかわらず、学生諸君はあまりにも受動的な勉強姿勢ではないでしょうか。空や山、木々のそよぎ、風や雨と対話して自己を見つめ直す時を持って、これから先に広がる諸君自身の人生のことを真面目に考えてみて欲しいと思います。

黙々と孤独に耐えて一生懸命勉強する学生を何人かは知っており

私も心を深く打たれました。しかし多数の学生諸君は友人との雑談のあい間に教師が現われるので、仕方なく授業に時間をさかれていくといった状況です。

諸君のこのような青春の「時」を私は腹立たしさを通り越して、不毛な青春であり、また悲惨な青春であると義憤を感じます。

人生にとつて卒業という「結果」よりも、学校でどのように過してきたかという「経過」が大切であると思われたい。また学生という身分に甘えて教師の姿を見て、「来た、来た」と言う者もいます。

諸君の一人一人は人間として自立した社会的動物であるのですから礼儀というものを知っていること

学生諸君へ

深野 佳 和

今、桜島をながめながらこの文章を書いています。鹿児島に来て十日近く経つにもかかわらず、引越しの片付けもままならず、段ボール箱に囲まれた毎日です。したがって高専での三年八月月をゆっくり振り返る余裕すら全くないのが実状です。

高専での学生諸君とのつき合いは、色々なことがあつたけれども、私自身にとっては楽しいことでした。

た。諸君らの考えや気持が私なりにどうやら理解できかけた頃、皆と別れなければならぬことになり非常に残念です。そして皆さんとのつき合いよりも、もっと自分の勉強をしたいという自分自身の我がままの方を選んだことを皆に申し訳ないと思つています。何も知らない未熟な教官ではありましたが、授業等で諸君に送つた私のメッセージを、いつか何かの機

人事異動

- 昭和61年3月31日付
- ▼退職▲
 - 校長 吉村虎蔵
 - 教授 清森宏之助
 - 技官 清田利徳
 - 事務官 近藤文治
 - 河村次義
 - 佐藤吉策
 - 春口幸雄
 - 穴山 健
- ▼転入▲
 - 教授 (福岡女子短期大学教授へ)
 - 助教授 (文教大学講師へ)
 - 以下昭和61年4月1日付
 - ▼昇任▲
 - 教授 (工業化学科) 永田良一
 - 教授 (機械工学科) 田口紘一
 - 講師 (一般科) 吉田正道
 - 講師 (一般科) 中島洋典
 - ▼兼任▲
 - 教授 成富 孝
 - 事務主事 須藤修一
 - 事務主事 中村安生
 - 事務主事 瀬戸 洋
 - 事務主事 吉田正道
 - 事務主事 石崎勝典
 - 事務主事 永守知見
 - 事務主事 中島洋典
 - 事務主事 新谷肇一
 - 事務主事 渡辺 徹
 - 事務主事 徳田 仁
 - ▼任命▲
 - 電気工学科主任 荒木三知夫
 - 建築学科主任 玉野 實
 - 一般科主任 (文) 品川尚司
 - 一般科主任 (理) 樋口大成
 - 図書館長 丹後杏一
 - 電子計算機室長 荒木三知夫
 - 主任 山下 巖
 - 主任 庵原久夫
 - 主任 吉岡義雄
 - 主任 吉武紀道
 - 竹村哲男
 - 亀石圭志
 - 堀田孝之
 - 深野佳和
 - 池田 茂
 - 中原正俊
 - 坂西文俊
 - 久保田啓一
 - 正留 隆
 - 塚本俊介
 - ▼転出▲
 - (熊本大学教養部より)
 - 堀田孝之
 - (九州大学工学部教授より)
 - 亀石圭志
 - (九州大学教育学部助手より)
 - 堀田孝之
 - (鹿児島大学医療技術短期大学)
 - 深野佳和
 - ▼採用▲
 - (鹿児島大学)
 - 池田 茂
 - 坂西文俊
 - 久保田啓一
 - 正留 隆
 - 塚本俊介
 - ▼採用▲
 - (工業化学科)
 - 永守知見
 - 中島洋典
 - 新谷肇一
 - 渡辺 徹
 - 徳田 仁
 - ▼採用▲
 - (工業化学科)
 - 永守知見
 - 中島洋典
 - 新谷肇一
 - 渡辺 徹
 - 徳田 仁

新人紹介

工業化学科助手
正留 隆



この緑豊かな東萩尾の地で、職員の方々並びにやる気のある学生諸君に囲まれ勉学できることをうれしく思います。

さて私事でございますが私も一年前、進路に思い悩む日々がありました。今こうして教師となり責任の重大さを改めて実感している次第です。

私のように未熟なものに学生を教育できるのだろうかという思いにさいなまれていますが、最善を尽くして粘り強く頑張っていきたいと思っております。どうかよろしくお願いいたします。

一般科助手(国語)

久保田 啓一

遥か昔のさまざまな日本人の喜怒哀楽を、文学を通して見てきた私が、日進月歩の機械文明の殿堂

ともいうべきこの有明高専で成し得ることと言えば、愚かしくも愛すべき人間の織り成す文学の世界の楽しさ、文学という形式による自己表現に執着し続けた人々の心意気、世界にも類を見ない日本語の持つ面白さの一端を、私なりに



学生諸君にお伝えすることでしようか。

複雑な人間社会を主体的に生き抜いて、技術をもって社会に貢献してもらうためにも、迂遠かつ不可欠の国語科に全力を尽すつもりです。よろしく御願いたします。

一般科助手(数学)

坂西 文俊

溢れる緑の中の恵まれた環境と素晴らしい皆様に囲まれて、数学ができることに感慨無量です。今までの「冗談だーよ」と笑って済まされる世界から、「こんな私でも税金を払っています」といえる立場に移ったからには、人事



を尽くした後の笑顔を目指して頑張りたいと思います。

サッカー部のいい男達と共にグラウンドを駆ける時、ふと見上げた空の明るさや風のきらめきに、「うひゃあー。すげえー」と感動している余裕もなく、まだ後の方からハアハア付いていく状態であり、猫の顔に落ちた雀の涙程も質のない若輩ですが、御指導御協力よろしく御願いたします。

電気工学科助手

中原 正俊



福岡での九年間の大学生活を終え、本年四月より私の故郷である大牟田の地で有明高専に務めさせていただきますことになり、非常にうれしく感じております。私は、特に知識・技術を通して工学のおもしろさというものを学生の皆さんに伝えていきたいと思っております。私

が今までに培ってきたものが皆さんの役に立てば望外の喜びと感じています。微力ではありますが諸先生方の御指導・御鞭撻をいただきながら、学生の皆さん共々頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしく御願いたします。

一般科講師(社会)

亀石 圭志



GREETINGS

It is my greatest pleasure to be able to study at Ariake National College of Technology with all the staff and the students.

Arriving here in early April, I found on a hill among green trees a spacious campus and fine buildings. And going to classes I found in the rooms a lot of young people eager, energetic and ambitious.

I was brought up in Kumamoto City and have lived there most of my life. In Kumamoto I have found a lot of things and places to be proud of. I have taught at three senior high schools in Kumamoto Prefecture and have met a lot of good students in classes. Now, here in Omuta City and in Ariake Technical College, I will find, I am sure, a lot more nice things, places, and students and classes. I am looking forward to seeing what awaits me in my life here.

I have my office on the third floor on the building for the staff of the liberal arts. Feel free to call me at my office for a chat.

I wish all of you, every one of you, will do your very best in your study, and I wish you, each of you, every success.

Shigeru Ikeda



24才まで京都で過ごし、10年間博多に。そして、深野先生の後任として、この有明に参りました。本校では、主に「倫理社会」を担当致します。この科目は、青年期中期にある高専生にとって、非常に重要な意義を持っています。それだけに、いかに授業を展開していくのか——私に与えられた課題は重い、と感じております。赴任して一カ月。やっと、学校や町の様子がおぼろげながら掴めかけてきたところです。しかし、まだ、落ち着かない。当惑し、模索しているうちに日々が過ぎていきます。宜しく御指導の程、お願い申し上げます。

有明高専 図書館だより 51

本を読むということ

読書感想文コンクール第五回目を迎えるにあたって

図書館長 丹後 杏一

私は本を読むのが好きな人間である。何かのためという一つの目的をもって読むというのではなく、ただ本を読むのが好きなのである。本に没入するとも言おうか、おそらくこの読書に耽るという因果な習慣は死ぬかボケるかするまでは治らないであろう。毎日熊本から大牟田までの汽車通勤の往復二時間を読書に充て、こよなく楽しんでる。カバンの中にはいつも硬軟とりまぜて二、三冊の本が入っており、その時々で気分が移り変わりに応じて読書に変化がつけられるようにしてある。(この原稿執筆中の現在カバンの中にあるもの、丸山真男「文明論之概略」

の下で、並河万里「東西文明の焦点トルコ」の三冊。)要するに楽しいから読むのである。勿論、教師という職業柄実利的、実用的な意図が全くないとは言え、その目的なしの読書「生活を過している」というのが目下の私自身の日常

なのである。ところが、このように本好きなところがあるが、近頃とみに、本というものがこの世から姿を消す時代が近づきつつあるのではないかとこの妙な不安を覚えることがある。すでにテレビの登場以来活字文化の滅亡の危機が云々されてきているが、このところコンピュータの普及と若者の活字離れの傾向の加速化とが相まって、いよいよその不安が現実のものとなったような気がする。光通信の西澤潤一氏が言われるように図書館が一冊の本もせぬデータバンクと化し去った場合、私のような本好きの旧人類は一体どうしたらよいのか。出版界もこのところ大衆的な週刊誌やマンガ誌などを扱う業者は景気がよいが、まじめな学術書や教養書を扱う出版社——岩波書店、筑摩書房、平凡社等々——は軒並み経営不振におちいっている。小売書店も店舗を改装するたびに、学術・教養書の棚が狭められ

るといふ現状である。たしかに若い人達——いわゆる「新人類」——が本を読まなくなつたのである。学生が本を買わないので、読みふろした本を売るといふこともなく、そのため地方の古本屋は経営が成り立たなくなつたことである。私達はこの傾向をおしとどめることはできない。今日のような活字文化の衰退期にあつて私達が本を読むことの楽しさ、面白さを若い人達に説き、読書の意義を強調すること自体、所詮蠅螂の斧をふるうに等しく効なきところみにすぎないのかもしれない。しかし、それでも私は自ら本を読むことのよろこびを心に覚えるがゆえに、そのよろこびを多くの若い人々にも分かちあげたいと思ひ、読書をするめようとするのである。本校で昭和五十七年以来催してきた読書感想文コンクールも数えて第五回目を迎えることになる。本年度もまた例年より以上にすばらしい作品が提出されることを心からぞんではいる。

昭和60年度学科別貸出図書冊数調

学科	学年	利用員	貸出冊数	内訳									
				000 総記	100 哲学	200 歴史	300 社会	400 自然	500 工学	600 産業	700 芸術	800 語学	900 文学
機械工学科	1	39	56	0	2	0	1	6	0	3	0	1	44
	2	55	68	0	1	3	4	10	29	8	8	1	12
	3	223	331	22	3	5	17	141	103	2	4	33	
	4	204	348	3	9	8	3	47	248	1	1	19	
	5	155	231	5	8	10	12	39	141	2	2	7	
計	676	1,034	30	23	26	37	243	521	11	20	8	115	
電気工学科	1	89	122	6	2	4	4	34	25	0	6	9	32
	2	229	339	9	4	12	7	30	146	1	11	7	112
	3	291	401	10	5	12	8	64	283	1	5	1	23
	4	732	988	19	6	4	14	54	835	11	7	2	36
	5	489	737	5	11	10	16	60	461	1	60	18	95
計	1,830	2,587	49	28	31	49	242	1,750	14	89	37	298	
工業化学科	1	231	340	4	8	42	26	39	26	0	65	5	125
	2	88	110	1	3	3	5	54	8	0	1	5	30
	3	355	503	11	15	18	22	335	47	12	11	4	28
	4	127	177	2	0	5	5	83	20	1	3	1	62
	5	284	380	5	3	21	5	185	106	1	6	6	42
計	1,085	1,510	23	29	84	63	696	207	14	86	21	287	
建築学科	1	83	109	4	10	13	1	0	22	0	2	0	57
	2	103	151	4	2	5	4	14	74	2	5	2	39
	3	260	335	4	6	12	13	62	156	0	11	1	70
	4	154	237	8	0	4	1	5	142	2	7	1	67
	5	171	236	9	1	22	1	3	182	1	11	0	6
計	771	1,068	29	19	56	20	84	576	5	36	4	239	
合 計	4,362	6,199	131	99	197	169	1,265	3,054	44	231	70	939	

分類	構成									
	000 総記	100 哲学	200 歴史	300 社会	400 自然	500 工学	600 産業	700 芸術	800 語学	900 文学
和書	4,166	1,353	4,189	3,163	12,149	17,141	241	1,682	1,846	10,615
洋書										6,240
合 計										56,548

昭和61年度 図書館スタッフ紹介

- 図書館長 丹後 杏一
- 一般科 (事務部) 瀬戸 洋
- 機械工学科 宮川 英明
- 電気工学科 浜田 伸生
- 工業化学科 宮本 信明
- 建築学科 三宅 昭春
- 一般科 猿渡 正樹
- 庶務課長 松添 光弘
- 図書係長 宮川 喜巳
- 司書 戸上 清子
- 宮本美沙子

新入生オリエンテーションを終えて

IM 坂井 慎介

天草青年の家で三日間の研修をして、有明高専の教育方針などが少しずつ分かってきました。例えば、単位のこと、中学のときにはなかったことで、少しとまどったけれど、今では単位というものが理解でき、これからどのような学習をしていけば五年間の高専の学習についていけるか、いくらか分かったような気がします。

IE 前原 典明

このオリエンテーションでは、オリエンテリングを楽しみにしていたが、それが雨でながれてしまったので残念だった。かわりに、バレーボールのクラスマッチをやった。これもおもしろかったが、その後したソフトボールの方がもっとおもしろかった。

反省はというと、初日の集合五分前に行かなかったことなどだ。でも、あと残りの2日間は大いに五分前に集まっていたと思う。あいつはちゃんと初日からやっていた。これだけは良かったと思う。それから、研修のときについてどうしてしまっただけの話があまり分らなかったときが2、3

度あった。こういうのは初めてだったからだろう。今度研修があるようなときは、気持ちを引き締めて、ちゃんと先生方の話しを聞いているように努力しようと思う。今までそんなに大きな声であいさつするということはなかった。大ききな声で、あいさつができていた。チクサクコールのときもだ。「チクサク、チクサク、ホイ、ホイ、ホイ、」と大きな声でやった。こんなに大きな声を出したのは久しぶりだったので、ウンと気持ち良かった。

チクサクコールは学科ごとにやった。途中はいつてきた農業クラブの人達も、15、16人ぐらいたった。僕達一学科に負けないような大きな声を出してやった。

キャンパスのついでには楽しんだ。キャンパス全部に火をつけ終わるとゲームがあった。ゲームとはいっても幼稚なものばかりだったが、そんなことは気にせず楽しくやれた。

これからの学校生活は、この研修で学んだことを活かしていきたい。そして、みんなと仲良くしていきたいと思う。

IC 桑原 立彦

二泊三日の今回の研修で、自分は、生活委員という大役をもらいました。最初はいやな役だと思っ

たんですが、いざやってみると、とてもいそがしい役でしたが、大変面白いと思いました。

終えて

友達になれたことは、とても良かったと思います。

この研修旅行で、五年間高専で生活する土台を作り上げることができたように思います。今後の高専生活の中には、とても苦しいこともあるでしょう。学校をやめたくなることもあるでしょう。でも、そういう時は、天草青年の家で学んだことを思い出して、無事に五年後には卒業したいと思えます。

IA 蓮尾 真成

入学して約二週間、クラスに知った人がいなかったせいもあって、なんだか、自分が広い世界にポーンと飛び出た感じで、周りのことが何もかも驚きと緊張に満ちていた。でも、行きのバスでの自己紹介が、それを吹き飛ばした。そこには、いろんな活気付いた人格があった。みんなおもしろそうで、つき合いやすそうでした。

バスは天草の青い島々の海岸線に沿って行った。大牟田のコーヒー

ともいそがしい役でしたが、大変勉強になりました。ふだん学校や家庭であまえてばかりの自分たちが、このような形で身心のたん練を行い、互いの親ばくを深めるということは、大変いいことだと思います。自分は、この研修で、少ししかいなかった友達を何倍にも増やしました。

それから、先生方の話は大変勉強になりました。特に、校長先生の話は、難しかったけれど、大変興味がありました。

今回の研修で反省する点は、一日目にあいさつをとまどってできなかった事、くつをちゃんとはいないで注意された事、特別研修室でねていておこられた事です。この三日間の楽しい思い出と、苦しかった事を、これからの学校生活、社会生活で生かしていきたいと思えます。



銀杏棟 学寮だより 青葉棟 若葉棟

薫り高き岱明寮文化を

寮務主事 中村 安生

本校の教育方針並びに寮訓をふまえ、岱明寮文化の創造と向上を計りたい。

文化……そのなかにいる人が生活していくに必要とする精神的栄養と、生活に必要なより高度な物品を創造し供給する土壌。

誰でもが吸収するだけであれば一年を要せずして土壌は痩せ衰える。吸収したらそれ以上のものを補給しなければならぬ。これがその集団内の生きがいである。○人は二度誕生して独立者となる。

最初の誕生は母親の体内からこの世に生を受けたときであり、これは生物としての誕生である。年が経つにつれ、周囲からいろいろな教育を受け、知識を身につける。しかし、これはお仕着せ

昭和61年度寮関係スタッフ

- | | | | |
|-------------|-------|------------|-------|
| 寮務 主事 (一般) | 中村 安生 | 教務主事補 (機械) | 吉田 正道 |
| 寮務主事補 (建築) | 新谷 肇一 | 機械工学科 委員 | 田口 紘一 |
| 寮務主事補 (工化) | 渡辺 徹 | 電気工学科 委員 | 中原 正俊 |
| 寮務主事補 (一般) | 徳田 仁 | 学生 課長 | 井手 利彦 |
| 寮務主事補 (寮母) | 徳水 信二 | 寮務 係長 | 徳水 信二 |
| 学生 主事 (電気) | 須藤 修一 | 寮務係 (寮母) | 富崎 クニ |
| 学生 主事補 (電気) | 永守 知見 | 寮務係 (栄養士) | 島本 久子 |
| 学生主事補 (電気) | 永守 知見 | 寮務係 | 西原 孝一 |

みんなでさわやかな寮を

寮務主事補 新谷 肇一

自治的・自覚的な集団生活を営むさわやかな寮を皆の力で創っていく上で次の三つのことが大切であると考えている。第一に基本的な生活習慣を身につけること。早寝早起に始まる生活リズムの確立、清掃・洗濯・食事等の保健衛生、健康管理の正しい習慣。第二に自己を見失わないこと。自分の時間の持たない常にざわついた生活でなく、生活目標の設定とその日々の反省ができること。第三に協調・友愛の精神による真の仲間づくり。切磋琢磨。後輩の指導は上からの押しつけでなく自ら範を垂れること。以上のことを寮生自身の力で実践される事を望む。

より良い寮を巨匠して

寮務主事補 渡辺 徹

今までの寮をみますと、次の事が今一つ不十分の様です。即ち、白室や廊下などの掃除を行ない、清潔を保持する事。夜更かしを避け、朝の体操を伸び伸びと行ない健康を維持する事。また、団体生活を通じて、協調、友愛の精神をもって上下級生の円滑なつながりを築く事などです。

あらゆる科学機器の発展に見られる様に、初めから完全なものはない。見あたりません。一歩、一歩改善することにより、機能がさらに充実し、使い易くなるのです。同様に、伝統、習慣等の悪い点

寮行事

2月15日、五年生の追出しコンパが行われた。あいにくの雨の中での相撲大会、続いて五年生による餅つき、そしてコンパが盛大に催された。



4月4・5日、恒例になった寮生指導者研修会が大牟田ハイッにおいて行われ、いろいろな事柄が話し合われ、有意義な研修を行なった。

4月9日21時より寮生総会が開催され、寮長をはじめ、寮生会各種委員、寮務主事室、寮務係職員の見解陳述が行なわれた。



4月27日新入寮生歓迎球技大会が開催された。グラウンドコンディションが悪く、ソフトボールがバレーボールに変更された。一人の事故者もなく、全力を出しきり、なごやかなうちに終了した。

○総合優勝 佐賀・長崎
○バレーボール(ソフトボール) 優勝 佐賀・長崎
○卓球優勝 八女久留米
○バレーボール優勝 佐賀長崎

はもとより、寮で働いている全教職員が出席し、祝勝を聞んだ。

入寮式の夜、新入寮生歓迎夕食会が食堂で催された。この行事は岱明寮初の試みであったが、寮生

昭和六十年十一月二十一日には熊本大学工学部機械工学科佐藤泰生教授の「熱エネルギー蒸気動力利用の歴史」について特別講義が行なわれた。講義の内容は、仕事とはどういうものか、エネルギーとはどういうものか、仕事率とはどういうものかについてまず話があった。次に、原動機の種類としては、水の流れて発電機を回す水力発電。ボイラでできた蒸気でタービンを回して発電機を回す火力発電。原子炉で発生したエネルギーで作った熱水を熱交換機を通して熱を吸収して蒸気を作りこの蒸気でタービンを回して発電機を回す原子炉。原子炉で発生する熱を液化ナトリウムに移し次に熱水に移し、この熱で蒸気を発生させタービンを回す増殖炉。ガソリンと空気の混合気をスパークで爆発させピストンを動かす、この上下運動を回転運動にかえるガソリンエンジン。ガソリンエンジンとメカニズムはほとんど同じで違いとしてはスパークプラグがない、ピストンで混合気を圧縮すると気体が高温になり自然着火するディーゼルエンジン。ジェット機に用いるジェットエンジン。水素のような燃料と酸素を混合させて噴出するロケット等があると話された。

総合実習リポート(24)



写真1 パネルのサビ止め塗装

昭和六十年現在の電源構成は、石油35%、原子力22%、LNG15%、水力12%、石炭8%であるが昭和七十五年には、原子力35%、LNG15%、石炭14%、水力10%、石油10%になるであろう。将来は原子力への依存が大きくなるであろう。

原子力発電の課題としては、軽水炉の改良標準化、高度化。原子燃料サイクルの完成。高速増殖炉の開発。軽水炉のスクラップ&ビルド。原子力発電コストの低減・安定化があげられる。

わかりやすい講義であり、学生にとって大変有意義であった。

昭和六十年十月十九日に一日入学で総合実習センターの説明を行い、環境風洞を利用して円柱のまわりに出来るカルマン渦によって円柱が振動する実験を行い、参加者に充実した実験設備を認識してもらった。

この結果、工作機械や化学プラント等によく使われるシーケンス制御を選び、その中でもなるべく基本的なものの製作・及びその実験を実施することになった。

2、製作への参加方法

装置の製作の対象となる項目は、

(一)項目決定の経緯
電気工学科では、なるべく次の様な条件を満たす電気工学に関する項目を検討した。
(イ)将来において、電気工学出身者以外の者にも、接する機会が多い内容であること。
(ロ)電気工学科の学生にも有益であり、しかも他学科学生にも比較的容易に理解できる内容であること。
(ハ)1回の実習時間(3時間)に對し、適切な量のものであること。

(二)実験継続のための費用がなるべく少なくて済むこと。

昭和60年度 後期 総合実習経過表

実習経過	実習項目									実習者数×時間(人時)																
	10			11			12			1			2			3			M	E	C	A	小計			
シーケンス	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	57.5	45		102.5	
実験	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	55	50		105	
自動ドア開閉	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			95	95	
吸込みチャンバーペンキ塗り																									23	23
計測室の拡張工事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■				147	147
熱伝導率の測定																									265	265
パシファナーハウスの設計製作	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■				138	138
アンケート調査																									111	111
Pyr-GC-MSによるポリウレタンの熱分解機構の検討	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■				104	104
通算累計										112.5	190	104	700	1106.5												
年間累計										456	258.5	447	1188	2349.5												

(A) モーターのじか入れ始動シーケンス制御装置
(B) モーターの正逆転運転シーケンス制御装置
(C) 自動ドアの開閉シーケンス制御装置

の3項目である。これに対して、参加者は、電気工学科5年(5E)、及び同学科4年(4E)、機械工学科4年(4M)の正規のカリキュラムにおける工学実験の各1箇班(人数はいづれも4±1名)であり、それぞれ週1回参加する。ここで、4Mと4Eは同一日に参加するので、この両班で新しく同一班には必ず両学科の学生の居る2箇班に編成し直し、互いに他学科の学生が啓発し合えるようにした。

装置の製作期間は、当初、年間30回の実習のうち、始めの10回程度(各装置とも百二十人・時間程度)を予定していたが、実際は、一年間を要してしまつた。

3、製作装置

製作項目A、及びB・Cの回路図は、それぞれ第1図、及び第2図第3図であり、それらを、高さ1.7m、幅90cm、奥行90cmのL型アンクル組棒に固定したパネル(90cm×90cmの鉄板)に取り付けた。なお、鉄製パネルには、サビ止めの後、ペンキの上塗りを行った。L型アンクルによる枠組・及びパネルのサビ落し作業の模様の写真と、それぞれ写真2・3に示す。

4、各装置の回路動作

製作項目(A)、及び(B)、(C)の回路図はそれぞれ図1、及び図2・図3であり、それぞれの動作の概要は次の通りである。

(A) まずナイフスイッチKSを投入すると緑色ランプGLが点灯する。次に始動用押しボタンスイッチPBに入ると、電磁接触器MCFが作動して誘導電導機IMが始動する。このとき赤色ランプRLが点灯しGLが消える。次に停止ボタンスイッチPBBSを押すとMCFが復帰しIMは停止し、同時にRLが消えGLが点灯する。

(B) ナイフスイッチKSを投入後正転用スイッチPBBS正入を押すと正転用電磁接触器MCFが作動し、これによりR、S、Tの各相が、U、V、Wの各相にそれぞれ接続され正転する。停止用スイッチPBBSを押すと、停止する。次に、逆転用スイッチPBBS逆入を押すと、MDRが作動し、これにより、R、S、Tの各相がW、V、Uの各相にそれぞれ接続され逆転する。

(C) 人の重みで、フットスイッチFTS₁が閉じ、リレーXにより接点X₁aが閉じ、MCFが作動する。これにより、MCFが閉じ、電磁コイルSVに電流が流れ、この時SVで油圧リシンド等によりドアを開く。次に、FTS₂が復帰しこれにより、X₂復帰、X₂b閉じとなり、タイマTRが付勢される。



写真3 サビ落し作業

写真2 枠組

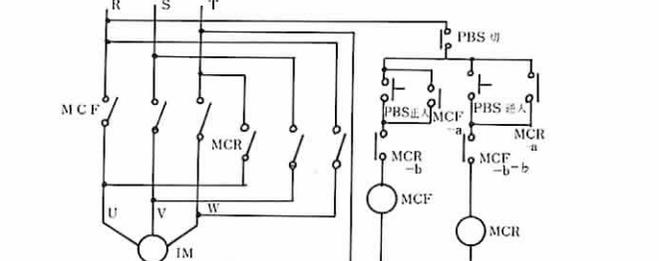


図2 モーターの正逆転運転シーケンス

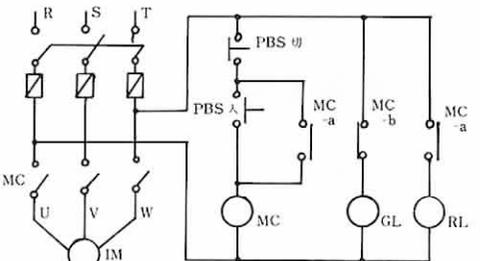


図1 モーターのじか入れ始動シーケンス

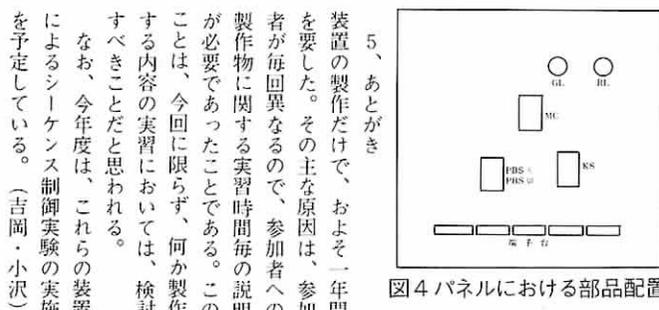


図4 パネルにおける部品配置図

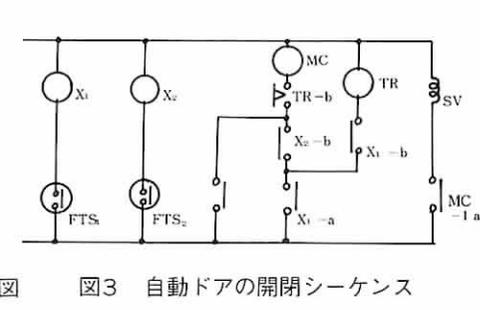


図3 自動ドアの開閉シーケンス

5、あとがき
装置の製作だけで、およそ一年間を要した。その主な原因は、参加者が毎回異なるので、参加者への製作物に関する実習時間毎の説明が必要であったことである。このことは、今回に限らず、何か製作する内容の実習においては、検討すべきことだと思われる。

なお、今年度は、これらの装置によるシーケンス制御実験の実施を予定している。(吉岡・小沢)

同窓会だより

川瀬君(○科7期生)に工学博士号

本校初の快挙
8年間の溶射研究実る
高温学会学術奨励賞も受賞



学位を取得して
川瀬 良一

現在の気持は、多大な時間と労力を費やしたが、大きな目標を達成することができ、充実感と喜びでいっぱいです。また学位取得までの過程において御指導をいただいた日立造船(株)の上司や先輩及び大阪大学の先生方、基礎的知識を教えてくださいました有明高専の先生方及び精神面で支えていただいた両親や友人に対して、深く感謝しています。この場を借りて御礼申し上げます。

以下に私の学位取得までの過程を簡単に紹介させていただきます。今後このような目標をめざす方の参考にしていただければ幸いです。

初めに、学位(博士号)について説明しておきますと博士には過程博士と論文博士の二つがあります。前者は大学の大学院の博士過程において所定の単位を取得するとともに教授の指導のもとに研究を行い、その研究論文を大学へ提出し、審査に合格した場合に授与されます。後者は学校を卒業後、企業などにおいて研究を行い、その成果を学会などに論文で発表するとともに一連の研究成果を教授の指導のもとにまとめて大学に提出して審査に合格し、また、所定の学力試験に合格した場合に授与されます。私が取得したのは後者の論文博士であります。この論文博士を取得するには学歴や年齢に制限がないので、高専卒の人でも資格があるわけです。

私は49年4月に日立造船(株)技術研究所に入社し現在まで、表面処理技術について研究してきました。入社後数年は表面処理技術の中でも主に塗装技術の研究に従事(実験者として)していましたが、幸運にも55年頃からアーク溶射法について研究(主研究者として)することを指示されました。しかし、社内にはアーク溶射技術についての専門家はいなかったため、独学で研究を遂行しなければならなかった。所定の研究成果は何とか2~3年で得ることはできましたが、私はもう少し基礎的研究をしたいと当時の上司峰久室長に願い出しました。

基礎的研究は企業利益につながらないことが多いのですが、私の熱意に対して、上司は「学位を取得するぐらいのつもりで」を条件に許可して下さいました。その後、先輩などの御指導により、研究成果を学会に13編の論文(その内英文4編、独文1編)で発表するとともに、大阪大学溶接工学研究所長荒田教授の御指導のもとに学位請求論文をまとめました。このようにして、学位を取得するに至ったのですが、その間、会社からは全面的に支援していただき、また荒田教授をはじめとする大阪大学の先生方には多大な指導をいただきました。ふりかえれば、ほんとうに多くの方からの御支援により目標を達成することができたと思います。私にあったのは3才児のような好奇心と熱意及び高専において先生方に教えていただいた基礎的知識だけだったと思います。また、このような長い過程においては精神的に苦しい時もありましたが、こんな時、精神的に支援していただいたのは友人であり両親でありました。目標を達成した時、こうして支援していただいた方から心からの祝福をいただき、喜びで胸がいっぱいです。

学位取得を区切りとして、また、新たな目標を見つけて、ふたたび喜びが味わえるように頑張りたいと考えています。

同窓会事務局から

新しい規約ができてから早くも九二年余りが過ぎた。御蔭様で会の財政基盤は固まり、事業も計画通りに運ばれ、今春も恒例の理事会を開催する準備に忙しい日々を送っている。

今日はその会間を利用して最近の同窓会関係のニュースを幾つか拾って皆さんにお届けしたい。

その1、同窓会のため多大の盡力をされた吉村虎蔵先生が3月31日付で定年退官された。先生は昭和55年4月1日、轟先生の後任、第4代校長として九州大学工学部から本校に着任された。

本校に於ける先生のお仕事振りは多方面に亘り、特に教育環境の整備拡充に敏腕を揮われた。例えば実習センター、一般棟、第二体育館、福利厚生施設「修己館」、学寮内設備の改修、新築によって本校の教育研究及び福利厚生施設の大幅に拡充強化された。

一方、最近の教育問題では臨教審の活動に先立って、「心」の問題を重視し、「挨拶——礼節、環境美化——奉仕、事故防止——自律、社会性」を日常の教育目標として掲げ、更に工学技術者の教育方針として、師弟の和親のもと、豊かな教養、基礎理論、実験実習、スポーツ精神を重んずる“全人教育”を通して、ゆとりある心、広い視野、高い識見、協調、積極、独創性、新分野を企画開発創造する能力を養い、明るい健康で使命感に燃える高度の実践的技術者の育成を目指すことを示された。

これらは図書館活動の発展を願う「読書三訓」と学寮訓「規律、友愛、協調、奉仕、清潔、健康」にも表わされている。こうしたものからも吉村前校長の本校教育に傾注された熱意が汲み取れるのである。

同窓会に対する配慮は特筆に値する。吉村先生は同窓会の発展と本校の発展とを車の両輪の様に考えられ、同窓生諸士が誇りとするに足る学校とは如何にあるべきかを考え、前述の様に教育研究が盛んに行なわれる為の努力を惜しまれなかった。と同時に同窓会員相互の親睦の実を挙げるための基盤整備、具体的には規約改正、会費徴

取方法の改善と財政基盤の確立、名簿の整備、発行等について積極的かつ懇切に助言、指導をされ、今日の同窓会の円滑な運営に多大の貢献をされた。

この様な先生の御活躍に対して同窓会として感謝の意を表すために、役員、理事一同立案中である。会員諸見師の御理解と御諒承をお願いしたい。

その2、本紙で紹介している通り、工業化学科第7回卒業生、川瀬良一君(日立造船技術研究所)が大阪大学から工学博士号を取得されるという快挙をなされた川瀬君は学生時代から、いわゆる実力派として目立つ存在で、勉強に明け暮れるというガリ勉型の人ではなく、調達な人柄であったが、今日彼の実績と努力研鑽の成果が学問の分野で相当の評価を得られたことは誠に喜ばしいことと云わねばならない。

仄聞するところ、他にも近々博士号を頂くことが確かな同窓生ありとのこと、本校関係者から優秀な研究者が今後とも輩出することを願ってやまない。

その3、「高専だより」の同窓会の頁の充実についてお願い。皆さん同窓会の頁が2頁に拡がったことは既にお気づきであろうと思う。60年度は各科1名づつ仲々面白くかつ有益な記事を寄せて頂き、事務局としてはこの上もなく喜び、かつ感謝している次第である。今年度も又同窓会員各位の協力を得て、同窓会の頁が一段と光彩を放つものにしたと希っているので、自薦他薦何れを問わず、様々な話題、情報を随時、本校宛に送っていただきたい。

一言断っておけば、紙面の都合で一部手を加えることもあろうかと思うが、執筆者の本意をまげようなどは絶対慎むことにしている。会員諸見師の積極的な投稿を期待している。

その4、時の経過は予想以上に速く、62年は同窓会名簿の改訂版を出す年である。名簿の価値を高める要因は云うまでもなく、最新かつ正確な資料を基にして、利用し易い体裁で、校正ミスのないものを作り上げることにある。この為には会員諸見師のこまめな情報提供が絶対必要条件となる。資料収集の節は、よりよい名簿作成の為、御協力、御支援を寄せていただきたく、や、時期尚早の感なきにしも非ずではあるが、今からよろしくとお願いする次第である。(文責・庶務担当・品川尚司)

教室通信

機械工学科

●清森宏之助 教授 定年御退官 昭和60年3月31日◎住所〒810 福岡市中央区警固1丁目6-44 Ⅷ092-741-3993 御退官前一寸体調をくずされましたが、元気をとり戻された御様子です。先生の御健康と御多幸をお祈り致します。

※次の方々結婚されました。おめでとうございます。◎松田光晴君(59) 60.4.27 結婚。新婦やす子さん(旧姓田頭)

◎岩根有希君(59) 60.4.29 結婚。新婦明子さん。(旧姓徳永)

◎内野智典君(53) 60.2.16 結婚。新婦実千代さん(旧姓牧本)

◎石橋博光君(53) 60.3.23 結婚。新婦多恵子さん(旧姓山本)

◎松尾昇君(53) 60.4.13 結婚。新婦浩子さん。(旧姓中村)

※同窓生動静

◎小宮俊博君(61) ◎〒440 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1 豊橋技術科学大学学生宿舎B棟201室 Ⅷ0532-47-0125(呼)

◎米田 武君(61) ◎〒142 東京都品川区二葉1丁目3-43 日本光学陽光寮 Ⅷ03-781-0307

◎武田五郎君(61) ◎〒312 茨城県勝山市市毛663 日立製作所曙寮 Ⅷ0292-72-4940

◎田島友昭君(61) ◎〒570 大阪府守口市竹町22 三洋電機竹町寮 Ⅷ06-991-2281

◎東 稔雄君(61) ◎〒234 横浜市神奈川区斉藤分町80 緑荘 2F 6号

◎松野健二君(61) ◎〒184 東京都小金井市前原町4-1-21 B214号 Ⅷ0423-81-1038

◎富安一宏君(57) ◎〒516 三重県伊勢市神社港107-5 くらがね社宅 106号 Ⅷ0596-36-4984

◎高山康二君(56) ◎〒359 埼玉県所沢市新郷129-2 長倉コーポ 203号室 Ⅷ0429-14-4403

◎古田秀行君(56) ◎〒187 東京都小平市回田町201 日電子第2昭和寮 Ⅷ0423-24-9391

◎杉本 隆君(55) □ヤマハ九州株式会社東九州支店 大分店船艇営業技術◎大分市大字宮崎字延命1377-1 Ⅷ0975-68-5114

◎田島憲一君(52) ◎〒836 大牟田市柿園町3丁目1-3 Ⅷ0944-55-2718

◎中友恒男君(51) ◎524 滋賀県守山市伊勢町451-84 Ⅷ0775-83-7317

◎平山辰三君(48) ◎〒243 神奈川県海老名市内沢橋 1017-8 Ⅷ0462-38-6316

電気工学科

4月1日付で中原正俊先生が着任されました。先生はこの3月九州大学工学部大学院博士課程を修了(工学博士)された新進の先生です。教室一同期待しています。3月末日付で近藤文治技官、清田利徳技官の二人が定年で退官になりました。後任として堀田孝之技官が熊本教養部物理実験室より、また、5月1日付で鹿児島鉄道管理局より塚本俊介技官(本校8期生)が着任されました。

◎松藤 稔君(57) 昭和60年12月1日結婚 新婦文子さん ◎新居〒890 鹿児島市伊敷町121-2 トクエイコーポ201 Ⅷ0992-28-9756

◎中尾輝雄(58) 〒861-02 熊本県鹿本郡植木町亀甲西385 Ⅷ096-272-6318

◎塚本誠也君(58) 〒336 埼玉県浦和市文蔵3-13-1 ローレル浦和寮206号室 Ⅷ0488-63-8611

◎小柳憲二君(58) 〒108 東京都港区海岸3-3-8

◎安田8号ビル5F Ⅷ03-454-5169

◎城戸隆征君(60) 〒227 横浜市緑区榎ヶ丘1-2 第2青葉寮410号室 Ⅷ045-983-0201

◎北浦政人君(49) 昭和61年4月1日より西部電機工業株式会社勤務。◎〒811-31 福岡県粕屋郡古賀町久保156の1 鳥ノ元社宅302号 Ⅷ092-942-3494

※学校来訪者(敬称略)

甲本茂也・古賀 稔・西村和久(以上54) 大勢伸一・門前徳生(以上56) 松藤 稔・平川浩嗣(以上57) 荒牧英幸・上田清年・小柳憲二・塚本誠也・谷川昌之・中尾輝雄・東 誠一郎・松崎義和(以上58) 青木信広・佐藤修司・塚塚和英・中川秀一・平川浩紹・藤本克二郎(以上59) 小川勝己・城戸隆征・田中雅昭・牧野雄至(以上60)

工業化学科

◎51年4月1日付で正留 隆助手(61年3月九州大学、応用化学修士卒業)が着任されました。機器分析、物理化学実験、機器分析実験、卒業研究を担当されます。〒836 大牟田市東萩町150 高専宿舎

◎川瀬良一君(49年卒業)は61年2月6日付で大阪大学工学部博士の学位を授与されました。おめでとうございます。論文題名:「アーク溶射法に関する基礎的研究」(13編うち英文4編・独文1編) 60年5月高温学会学術奨励賞受賞 所属:日立造船株式会社技術研究所(S19-) 現住所 〒591 大阪府堺市百舌鳥町7-1094-1 A20-101 Ⅷ0722-87-1593

◎森 茂人君(49) ◎61.4.19結婚(新婦美津代さん) ◎〒187 東京都小平市小川町B5 青年会館

◎高木憲二君(56) ◎61.4.20結婚(新婦良子さん) ◎〒864 鹿児島市原田原区732 Ⅷ09686-2-2951

◎浜崎一彦君(55) ◎転居 〒651-11 神戸市北区日下部1021の1 富士ナクン日下部寮

◎七種謙一君(59) ◎転居 〒955-54 新潟県長岡市上富岡町345 東園206号室

◎川口義守君(61) ◎進学 長岡技術科学大学 ◎〒959-54 新潟県長岡市上富岡町101

◎古賀隆行君(61) ◎就職 日本DEC ◎〒180 東京都武蔵野市中町1-24-8 朝日荘202号

◎小林竜二君(61) ◎就職 チッソ(株) ◎〒210 川崎市川崎区親音町1-12-16 チッソ川崎寮

◎柴戸みさをさん(61) ◎就職 大日精化工業(株) ◎〒161 東京都中野区中央3-24-15 鍋屋横丁住宅1010

◎濱田安雄君(61) ◎就職 日本真空技術(株) ◎〒253 神奈川県茅ヶ崎市今宿274 A-311

建築学科

※次の方々結婚されました。おめでとうございます。◎川原敏明君(51) ◎昭61年4月27日結婚(新婦恵子さん) ◎昭61年5月5日結婚(新婦久美子さん) ◎昭61年4月26日結婚(新婦鏡子さん) ◎昭61年5月11日結婚(新婦弘恵子さん)

※同窓生の転勤、転職、就職、転居等をお知らせします。◎池田修二君(51) □転勤、日本たばこ産業(株) 関東支社◎〒213 川崎市高津区尾ヶ谷2-11-4 304号 Ⅷ044-888-0827

◎楠本草宏君(51) 東洋サッシュを退社後不二サッシュに入社

◎鶴田和富君(51) 三ツ矢建設を退社後井筒屋建設に入社

◎奥岡一也君(53) ◎転居〒813 福岡市東区香椎浜2丁目7番2-402号 Ⅷ092-672-2185

◎橋本新一君(53) ◎転勤N T T関東地産技術センター 〒130 東京都墨田区錦糸町4-17-10 N T T錦糸町ビル Ⅷ03-244-7694 ◎〒160 東京都新宿区新宿7-26-47 N T T大久保寮 Ⅷ03-202-4030

◎堺洋三君(55) ◎転居 〒836 大牟田市勝立

◎橋本知章君(57) ◎転勤 日本たばこ産業(株) 関東支社

◎伊藤泰敏君(58) ◎転勤 〒803 北九州市小倉北区下町津5丁目9-4 松尾建設北九州営業所

◎中島光君(59) ◎転職(有) 永和測量 〒836 大牟田市市長満町4番地 Ⅷ0944-55-3419

◎村島敏志君(59) ◎転勤 アドテックデザイン 熊本営業所 〒860 熊本市南熊本1丁目10-18 鹿鉄ビル内 ◎〒862 熊本市田町明田迎18 県住16-302 Ⅷ096-379-0415

◎吉村信二君(59) ◎転居 〒532 大阪市淀川区木田東4-11-13 サンリット新大阪404号

◎奥和範君(60) ◎転居 奈良市四条大路1丁目8-6 竹中工務店竹友寮204号室 Ⅷ0742-35-4309

◎末健二君(61) ◎就職(株) 高松組 〒819-01 福岡市西区今宿青木1159

◎寺田高彦君(61) ◎就職 三井ホーム(株) 建築部建築課 〒163 東京都新宿区西新宿2丁目1番1号 新宿三井ビル内 Ⅷ03-346-4657 ◎〒158 東京都世田谷区用賀2-16-43 三井ホーム用賀アパート203号

◎永松高君(61) ◎就職 石橋建築事務所 〒840 佐賀市白山1-4-28 益本白山ビル内 Ⅷ0952-22-6820 ◎840-01 佐賀市兵庫町修理田225-8 井上敏子様方 Ⅷ0952-24-2779

◎福島高史君(61) ◎就職 西松建設(株) 熊本建築出張所 〒860 熊本本市荘4丁目1-5 Ⅷ096-371-5568 ◎〒869-04 宇市市松原町117 Ⅷ0964-22-1035

※学校来訪者(敬称略)

池田修二(51)・渡辺一美(53)・生駒新也・坂口哲男(以上55)・太田黒博文(56)・小形伸治・田中洋信・橋本知章(以上57)・岡藤貴子(59)・江崎和彦・寺田高彦(以上61)

新入生歓迎遠足を 終えて

新人社員の合宿研修が始まろうかという3月末、本校でも各体育クラブが高専大会に向け早くも猛練習を開始した。

期間は3月29日より4月4日の7日間で、硬式野球部・軟式庭球部・卓球部・サッカー部・バスケットボール部・剣道部の6クラブ、総勢98名が参加した。

去る4月29日(火曜日)、天皇誕生日に、昭和六十一年度新入生歓迎遠足が、予定通り、無事終了した。目的地は小岱山観音岳山頂、行程は約11kmであった。

ここ2回、小岱山への遠足は、雨のため中止され、天候が気になるころであったが、幸運にも当日は晴天に恵まれて、55年春以来六年ぶりの実施となった。



この2回、小岱山への遠足は、雨のため中止され、天候が気になるころであったが、幸運にも当日は晴天に恵まれて、55年春以来六年ぶりの実施となった。

校長訓辞、学生総会、準備体操のあと、建築学科、工業化学科、電気工学科、機械工学科の順に各科一年生を先頭に、午前九時十五分に学校を出発、途中、府本から二つのコースに別れて、十二時頃、観音岳に到着した。

陽春の光を浴びて輝く有明海の彼方には、雲仙岳が遠くかすみ、新緑に囲まれた山頂では、建築

新学生主事室の発足に当って

学生主事 須藤 修

須藤・石崎・永守・中島のメンバーからなる新学生主事室が発足してほぼ一カ月がたった。この間、学生会行事(遠足)の企画実施、厚生補導委員会(一部会二部会)クラブ顧問会議、九州地区高専大会運営委員会、交通違反その他の学生の処分と指導、新入生オリエンテーションへの参加など、大忙しであった。忙しいのは仕方ないとしても、効率が良くないのには参った。いくら時間を投入しても仕事が減らない感じなのだ。

この効率の悪さから一日も早く脱却するために、まず我々が主事室の業務を勉強すること、つぎに事務の合理化を進めることを考えたい。これによって、あと追いつくのではなく先手の施策を考える時間を

学生会だより

春季合宿

前半は寒い日もあったが、後半は桜も一気に開き、春の光を一杯に浴びて、グラウンドやテニスコート、武道場や第一・第二体育館から元気な声とびがけ、若い力が躍動した。多くの学生が春休みでのんびりしていきるとき、この合宿には頭の下る思いがあった。

食事も修己館にて礼儀正しく行なわれていたし、事故もまったくなかった。精神・技術両面で素晴らしい鍛練ができたこと、各部の主将ならびに顧問の先生方にあつくお礼申しあげたい。

この成果をベースにして、各部が大会にむけて一層の飛躍を果されんことを祈る。

(関連記事「高専体育大会を前にして」15ページ)



学科の松島先生が、小岱山に関する説明をされ、その後、新入生に対する学生会役員、各科団長(◎平川伸二、◎堤良則、◎高木啓一、◎中西寿人)の紹介と体育祭へ向けての決意が述べられた。

六年ぶりの小岱山ということで、学生会にも経験者が居らず、下見の時間をかけ、計画、準備、当日の各役員の仕事分担、仕事ぶりが順調であった反面、信号機で間が空き、その後正常に戻るまでの行進や、頂上で散らしたはしななかったものの、多量のゴミが集まった点、当日各科毎の歓迎行事が行われず解散した点、トランシーバの間で、途中一部連絡がとれなくなった点に、次回は考慮を払う必要があると思われる。

何はともあれ、今回の遠足が、爽やかなハイキング日和に恵まれて無事終了し、下山する新入生をはじめ全学生に、心地よい汗と笑顔が見られた事を喜びたい。



昭和60年度 クラブ学生表彰

(追加分)

- ◎バレーボール部(3名)
- ◎米田 武 ◎福井 浩一
- ◎田中 昭彦

高専体育大会を前にして

硬式野球部

我々、野球部は「青春」という二・三〇〇〇ページもある広辞苑みたいな厚い本に「友情」とか「忍耐」「根性」などの数々の名文句を書き残すように、部員一同一丸となつて思いっきり青春したいと思つていきます。

皆様の応援、期待します。

野球部主将 江田昭彦

軟式庭球部

昨年は団体戦三位という成績で終わってしまいましたが、今年も昨年の成績を上回るように全部員気合を入れて、毎日授業が終わってから暗くなるまで練習に励んでいます。六月くらいからは対外試合をできるだけ多くこなして経験を積み、高専大会でそれを応用できるようにしていきたいと思つていきます。

硬式庭球部

我々、硬式庭球部は、7月末に行われる高専大会に向けて、基礎の再確認として、サーブ、ボレー、ストロークを主に練習に励んでいます。昨年は、全国大会出場を目標にしてきましたが、達成することができなかったのが、今年には団体戦、個人戦共に全力をつくして戦うことを目標にがんばりたいと思います。

卓球部

我が卓球部は、新入部員8名を加え総勢22名になり、夏の高専大会へ向けて活気のある練習に励んでいます。

昨年は、惜しくも予戦リーグで敗退してしまったので、今年こそは決勝リーグに進出するために我々は、フットワークの強化を行い、また試合で個人の實力がフルに発揮できるように、数多くの練習試合に参加していきたいと思つていきます。

SE 幸田 芳典

サッカー部

我々サッカー部は、鹿児島高専に於て地区大会が行なわれず。本年度は前年度までの反省を充分にいかし、キャプテン松田を中心として、走り込み、筋力トレーニングなどの基礎体力作りに重点を置き、また、パスワークの基本的なものから、試合形式の実戦練習まで、幅広い練習に取りこんでいきます。夏の大会まで社会人との試合も組んでおり、「今年こそは全国出場を」と部員一丸となつて練習に励んでいます。

バレーボール部

我々バレー部は現在部員数38名。夏の高専大会で悔を残さぬよう、そしてよい結果を残すようにと日夜練習に励んでいます。平均身長を低くカバリーする為、速さと幅の広い攻撃を完成させ、部員が

バスケットボール部

我がバスケット部の部室の壁にかかっている言葉に、「最大の栄光は、一度も失敗しないことではなく、倒れるたびに起き上がることだ。」というのがあります。部員各自が、その言葉を念頭におき、氣力、体力、技術の向上を目指し、日々の練習に励んでいます。

間近に迫った高専大会へ向け、チーム一丸となつて頑張ります。

柔道部

我々、柔道部は、林正道主将を先頭とし、夏の高専大会優勝を目指し、毎日猛練習にはげんでいます。部員はわずかに十数人ですがやる気のあるものばかりです。

みなさん応援よろしく!

剣道部

我々剣道部は、七月下旬に行われる九州地区高専大会に向けて、部員一同、日々練習に励んでいます。「攻撃は最大の防御」と言われるように、逃げずに前に出る剣道を目指し、従来の練習内容に実践的な技を加え、部全体、盛り上げていきます。

新たに、新入部員を迎え、今年こそは、全国大会出場を勝ち取りたいと思つています。

陸上競技部

我々陸上競技部は本年度に入り、もうすでに高専大会に向けて情熱を燃しています。今年も昨年より

も数多くの試合・記録会に参加し、各個人が少しでもよい記録を残せるよう頑張りたいと思つています。そして特にフィールド勢は全国優勝を目指して頑張る決意であります。とにかく、今年も燃えてます!!

ハンドボール部

我々は、各人の個性を生かしたプレーのできるチームを目標とし、より一層気合を入れた練習を重ねています。今年も、去年のレギュラーが、半分以上も残っているため、経験を生かした試合ができれば、今年の日標である優勝も夢ではないと思つています。残された時間を有効に使い、悔いの残らないよう力の限り戦ってきます。

弓道部

我がクラブは来る西日本大会に備え毎日練習に励んでおります。弓道において最も大切なものは集中力です。心静かに弓を構え、徐々に集中力を高めながら引き、最高点に達した瞬間に矢を射る。弓道は精神力との戦いです。それと同じに美しさを競う武道でもあり、練習を積み重ね、部員一同、二連覇を目指してがんばります。

水泳部

水泳は他のスポーツと異なり一回ごとの勝負であり、二度目のチャンスがない、よって不断の努力が必要となつてきます。特に心の面すなわち精神的鍛練について、苦しい練習を乗り越えてきた喜び、新境地を身につけてきた喜び、この喜びを得るため毎日の限られ

た時間内で最大限に努力します。今年も期待のもてる新入生の入部により量が増えたいと思つています。昨年は、久留米高専と対戦しましたが惜しくも敗れました。今年度はコーチ南さんの指導のもと、主将玉本を中心に夏休み前までの練習試合によって個人のレベルアップとともに欠点を補い、8月の合宿を機に、チームの団結力をよりいっそう強いものとし、ベストの状態を高専大会に臨めるよう頑張ります。

ラグビー部

我がラグビー部は、他のクラブとは違い11月に高専大会が行なわれます。昨年は、久留米高専と対戦しましたが惜しくも敗れました。今年度はコーチ南さんの指導のもと、主将玉本を中心に夏休み前までの練習試合によって個人のレベルアップとともに欠点を補い、8月の合宿を機に、チームの団結力をよりいっそう強いものとし、ベストの状態を高専大会に臨めるよう頑張ります。

登山部

登山部は、八人の新入部員を迎え、部員数十五名で毎日張り切って練習をしています。

主な練習として、体力強化を目的とした歩荷や長距離走、サーキットトレーニング等を週五日間行ない、週末は地形図の作成や地図の読み方、天気図の描き方・読み方等登山に必要な基礎知識の勉強を行なっています。登山の対象は九州内の山で、年間八回程度の登山を目標にがんばっています。

